俳句

大津俳句会

ゑのころに野の風強くなるばかり

井芹眞一郎

かなかなの余韻消へゆく闇の中

秋山 恵

亡き父母にはらから揃ふ墓参かな

大塚喜久子

煮南瓜の味と色とに満たされり

佐賀 久子

友来るもてなす卓にメロン切る

岡崎 浩子

かき氷出店に並ぶ法被の子

佐澤 俊子

棟梁の鉋の目立て今朝の秋

中林 好子

俳句

つのはな句会

鎮魂のサイレン心耳しんみみに球磨の夏

木庭 杏子

この地球はしに絡まり伸びるヤブカラシ

上杉 波

侵攻は止まず向日葵立ち枯れる

矢嶋 道子

麦笛や穂先の刺に泣いた日よ

水野 春子

遠花火未完のままの予定表

梅木トキエ

蝉時雨若き日の我夢に見て

塚本 洋子

はえ取り紙ねじれて昭和遠くする

榮田しのぶ

築場にて少年に返り古希祝い

村田 健二

柿熟れて消える家系図昭和の灯

志賀 孝子

バス廃止の旧道白い百日紅

田上 公代

短歌

大津短歌会

夕暮れに燈をともすがに夕すげの黄の花
浮き立つ阿蘇の草原

豊岡ミツル

紅薔薇に隣る芍薬白き花羽化する蝶のご
とくに開く

吉永 恵子

風に揺る木の葉ごしなる陽のひかり里へ
の径をまだらに照らす

鞍 岳志

友誘い友の得意のダンゴ汁時間ときは過ぎゆ
くページに残る

管野 静

めぐり来て今年も咲けりあやめ花幼き頃
の井戸端に咲く

小平 善行

しやしやしきと鱗剥がさるる鯛の目は晴
れたる海の色をしている

坂本 杲子